

古地磁気・岩石磁気分科会報告

日程：2005年9月1～3日

場所：産業技術総合研究所第7事業所第2会議室

上記日程・場所において第37回古地磁気・岩石磁気サマースクールが開催された。この「夏の学校」は、以前は、学会では時間が短くて充分議論できないことを、若手研究者が中心となって議論する場、という色彩が強かったが、今回は、学生にじっくり勉強してもらって、この分野の魅力や重要性を理解してもらおうことを目指した。そのため、ダイナモからテクトニクスや地球環境研究への応用まで幅広い内容で、大学院修士課程レベルのレクチャーを主体としたプログラムを構成した。参加者は例年より多い65名で、約半数が学部生から博士課程の学生であり、多くの学生の参加を得たことは成功であったと思う。また、自己紹介を兼ねたポスターセッションを行ったが、学生・若手研究者の交流に大いに役立ったと思う。なお、開催にあたって日本地球掘削科学コンソーシアムと地質調査総合センターに後援をいただいた。

9月1日（木）

<レクチャー>

「古地磁気学を応用したテクトニクスの研究法」星 博幸（愛知教育大学）

「火山岩の古地磁気強度」山本 裕二（産業技術総合研究所）

「堆積岩の古地磁気強度」三島 稔明（高知大学）

「関東平野の地下構造」高橋 雅紀（産業技術総合研究所）

<ポスターセッション>

9月2日（金）

<レクチャー>

「地球・惑星ダイナモ」高橋 太（航空宇宙研究開発機構）

「コア・マントルダイナミクス」浜野 洋三（東京大学）

「ホットスポットの移動・真の極移動」山崎 俊嗣（産業技術総合研究所）・原田 靖（東海大学）

「カンブリア爆発とバイオミネラリゼーションの起源」遠藤 一佳（筑波大学）

「カンブリア爆発と真の極移動」菅沼 悠介（産業技術総合研究所）

「古地磁気層序年代法」兵頭 政幸（神戸大学）

<一般講演>

「雲仙火山のマグネティックペトロロジー：鉄チタン酸化物に残された噴火と冷却の記録」齋藤武士（京都大学）

「屋久島花崗岩の帯磁率異方性と岩石組織異方性」安間 了（筑波大学）

9月3日（土）

<レクチャー>

「環境磁気学」林田 明（同志社大学）

「IRM 獲得曲線の解析」小田啓邦（産業技術総合研究所）

「IODP における掘削コア研究の紹介」金松 敏也（海洋研究開発機構）

<一般講演>

「海底極表層堆積物の堆積学的・岩石磁気学的解析に基づく初期続成作用の研究-沖縄トラフ・琉球海溝斜面から採取されたマルチプルコアの例」 川村 紀子（京都大学）

<ビジネスミーティング >

2006年連合大会の国際セッションについて



[2005年夏の学校幹事 小田啓邦（産業技術総合研究所）]